

周南市庁舎建設検討市民委員会（第2回） 議事の概要

日時	平成24年9月3日（月） 18時～20時15分
会場	周南市役所本庁舎本館3階防災対策室
出席者	委員9名（石丸委員、岡寺委員、熊野委員、佐伯委員、新本委員、原委員、村越委員、目山委員、矢守委員） 事務局8名（山下企画総務部長、西村総務課長、福本庁舎建設準備室長、杉岡室長補佐、有馬、重國、貞長、吉村）、周南市庁舎建設基本計画策定業務受注者日建設計1名
欠席者	齊藤委員

【開会】

1 前回会議の議事の概要について確認

（1） 委員長と副委員長の決定

（2） 検討の進め方

基本的に事務局から提案したスケジュールに沿うが、進捗状況に応じて修正しながら進めていく

（3） 委員から出た意見又は要望について、事務局から以下の点について説明（資料「庁舎建設検討市民委員会 意見等整理表」

市民参画の進め方を精査し、市民委員会との関わりがわかるようにすること

（アンケートの具体案を提示すること）

アンケートの目的は利用状況の把握と意識調査とする。方法は、10月1日号の市広報に折り込みで全戸配布し、19日までの回答期間として実施する。回答方法は投函できるものとする。アンケートの実施に伴い、結果を検討するために会議の開催回数を1回増やした。11月の会議の時には結果を示せる。

（パブリックコメント）

パブリックコメントは基本計画策定の前に1回実施する予定だったが、基本構想の前にも実施する（計2回）。それに伴い、基本構想の完成が2か月ほどずれ、3月が完成となる。

（出前トーク）

出前トークでは、基本構想の案が完成するまでは過去の検討状況等を説明する。基本構想の案が決まれば、基本構想の内容を主に説明する。基本計画の素案を策定後は、基本計画を主に説明する。

（シンポジウム）

シンポジウムは基本構想をまとめた段階で、その説明のために実施する。

（討議内容の公開）

検討状況はホームページで随時公開、重要なものは市広報で公開する。

本庁の配置状況が分かる資料を作成すること

本庁機能が分散されていることが分かるように、どこの庁舎にどの部局が配置されているかわかるものを作成した。

窓口業務内容を一覧表とし、どの業務がどの庁舎で行われているかわかるものを作成した。

耐震性についてまとめた資料を作成すること

【本庁が倒壊又は崩壊した場合に想定される事態】

行政機能の喪失として大きく3点考えられる。

- 1 安全性として来庁者及び職員が被災する
- 2 災害対策機能として、情報収集、情報発信ができなくなる。また救助、指揮統制の拠点となる施設が無くなってしまう。
- 3 業務継続性として、行政サービスが継続できなくなることや、重要情報の喪失のおそれがある。

【想定される事態を防ぐために備えるべき機能】

耐震性能を備えた防災拠点施設が必要である。

- 1 市民の安全が最優先であり、耐震性の確保が必須である
- 2 本庁機能を集約し土木・農林部門との連携を強化する必要がある。
- 3 検討すべき防災機能として、一時避難スペース(避難場所として利用できるもの)、救助活動スペース、備蓄機能、停電対策、水対策が必要である。

事務局の説明に対する委員からの意見等

アンケートについて

委員長：事務局からの説明で何か意見は。

委員：タイトルはどのようにするか。

事務局：これから決定する。

委員：新庁舎を建設することを前提の表現とするのが気になる。

事務局：検討に反映したいという形にする予定である。9月15日号の広報の1面に検討を進めますという内容を掲載する。その後の10月1日号でアンケートを実施する。

委員：最初は拒絶反応を示す市民もいると思うので、取っ掛かりが気になっていた。事務局の説明する表現であれば良いと思う。

委員：自治会に入っていない市民への対応は。かなりいるのではないか。

事務局：67,000世帯のうち61,500世帯に配布予定である。5,500世帯には届かない。

委員：まったく自治会が無い地域もある。

事務局：アンケートの手法としては、通常、無作為抽出という方法が多い。しかし、今回はできるかぎり多くの方から意見を頂きたいので市広報に折り込んで配布することとした。自治会に入っていない方は公共施設で市広報を取得できる。アンケートの実施についてマスコミを通して周知したい。

委員：市広報を折り込む方法に合わせて、市役所の窓口で配布する方法もあるのではないか。民間ではよく取る方法である。市広報は見てそのまま終わってしまうおそれもある。直接説明し、アンケートをお願いできるのではないかと思う。回答率に影響があるのでは。

委員長：広報を手に入れられない方への対応として検討してはどうか。

委員：年齢を記入する欄があるが、一人暮らしの市民は市広報を見る機会は少ない。若い人の回答を期待するのであれば、教育現場へ協力を依頼してはどうか。

事務局：小中学校への依頼は難しいと思われる。高専・大学であれば可能性はある。

委員：可能だが、徳山高専の場合に周南市民は4割程度しかいない。仕分けができないので、周南市民でない学生にも渡す可能性もある。

事務局：備え付ける方法でどうか。

委員：それであればできるかもしれないが、回答率が上がるかどうかはわからない。それで、果たしていいのか。アンケートの対象者を、市政に積極的に参加する市民・納税者として市庁舎に対する意識を聞こうとしているのか、それとも、色んな市民を対象としているのか。それによっては、アンケートの実施方法も変わってくるのではないかと思う。また、アンケートの内容が弱く感じる。直接的に耐震性について聞いたり、建設コストについて聞いたりすることもできる。設備や利便性などを聞くことは、遠回しに感じる。この内容で建設に向かっていくことは難しいし、決定的な意見は出てこない。これでどうやって方向づけるのか。委員としても市民のニーズとして建て替えが必要であるという意見を聞いておきたい気持ちがある。造る前提であれば、知恵や意見を積極的に出したい。どういう条件があれば建て替えても良いという考えが得られるようなアンケートでよいのでは。このまま現在の庁舎を使い続けるほうがコスト面で高くつくことや、耐震性が十分でないなどについてしっかり説明したほうが良い。市広報で庁舎建設について検討していることを伝えた後のアンケートという流れはよい。だからこそ内容をもっと踏み込んでよいのでは。ターゲットは主体的な納税者でよいのでは。若い人の意見を聞きたいのであれば、周南市で学んでいる人という枠で考えて、全学生を対象にアンケートをしても良いと思う。

委員：9月の広報は重要で、しっかりPRしていかなければいけない。

委員：アンケートは建て替えの是非を問うものかと思っていたが、市役所のあるべき姿を聞く方向とわかった。この方法でも良いのではないか。

事務局：今回のアンケートでは利用状況を把握したいと考えている。是非については基本構想の素案ができ、パブリックコメントで聞くことができればよいと考えている。また、アンケートで意見を記入できる欄も設けているので、賛否など、いろんな意見が聞けると考えている。

委員：質問4については、意見の濃淡を聞くことができず、選択肢もたくさんありすぎる。焦点になることだけを聞き、回答で濃淡を付けてよいのでは。簡単に答えられないと回答が集まらない。

委員：質問4はやさしく考えると全部 になる。また、質問2の利用状況について1と2の関連性が無い。本庁を利用する人が多いことを把握したいのでは。

委員長：アンケートの回答方法として、質問4について5段階評価にした方が良いという意見と、質問2の関連性についての意見が多い。対案があれば出してもらいたい。

事務局：委員の意見を伺ってアンケートを修正したい。

委員：委員はみんな、後ろにいる市民の感覚を背負っている。市民に必要性を納得してもらう必要がある。そのためには、広く回答してもらおうべき。庁舎建設の話は突然出てきたように感じる人が多いと思う。慎重に丁寧に進める必要がある。アンケートは意見

交換程度で良いとして進めて、パブリックコメントで反対となったらどうするのか。もっと先手を打っておく必要がある。少なくとも委員が納得するような方法を取るべきである。

2 議題

(1) 現状と課題

事務局から以下の点について説明（資料「周南市庁舎建設検討市民委員会 第2回会議資料P1～P9」

増改築を繰り返して整備されてきた経緯から、バリアフリーの実現が困難である。東本館と他の各棟がフラットにつながっておらず、市民利用の多い窓口部門の位置を限定する状態になっている。また、構造的に大空間が確保できない。

本庁機能の分散から市民に移動の負担をかけてしまうほか、職員の移動時間や経費がかかり行政費用が増大している。

建物と設備機器類の老朽化により維持管理費が増大傾向にある。それぞれで更新が必要となっている上、根本的な問題解決が難しい。

(2) 庁舎整備の必要性

事務局から以下の点について説明（資料「周南市庁舎建設検討市民委員会 第2回会議資料P10」

これまで耐震改修整備も検討してきたが、課題解決は難しい。

老朽化への対応、災害対策拠点機能の確保、市民の利用しやすい庁舎

これらを実現するには、早急に何らかの整備（新築又は耐震リニューアル）が必要である。

委員長：意見があれば。

委員：これらの資料について疑いの余地はなく、現実をきちんと伝えれば納得してもらえるものだと思う。だから庁舎整備が必要だと考えてもらえるように丁寧な進め方が必要である。しかし、市民は市庁舎のために暮らしているわけではなく、雇用や町の衰退など不安に思っている。それでもこの事業を進めるんだという理念が必要だと思う。

委員長：広報が出た時に、市民から問い合わせを受けた際にきちんと説明できる理論が必要だと思う。庁舎を建設することは、地元への貢献もあるはず。トータルに納得してもらえる回答が必要である。

委員：9月の市広報案を見ると普通は建て替えるんだと認識すると思う。ちゃんと進めないと逆効果になってしまう。庁舎建設の優先順位は必ずしも高くない。これを前面に押し出すための思想が必要。だからこそ、次のアンケートはどうやってフォローするかをもっと考える必要がある。

委員：同じく。アンケートのタイトルもそうだと思う。優先順位は人それぞれである。

委員：耐震補強しても、あと何年もつか。新築したほうが安くつく可能性がある。そういったことも市民に伝えるべきではないか。一般的にはリニューアルしたほうが安くなると思う人が多いのではないか。税金を無駄にしてほしくないから市にそれを見せてほしい。

事務局：耐震リニューアルと新築のコスト比較は次回の委員会でお示しする。

委員：大多数の市民は関心がないと思うので、出前トーク等を使って、市民に納得してもらえるように進めてほしい。

委員長：市民に理解を得られていないと、委員としても検討しづらい。できるだけ理解を得ながら議論を進めることとする。

委員：街の中心部に賑わいが欲しい。この場所はとても良い場所なので、街の中心部を活性化するというストーリーも欲しい。今の交通量や通行量を調べ、工事が終わった後にどのくらい変わったか示せたら良いと思う。学生もよく通るので、イベントの開錠として活用できるような場所があれば良いのでは。考えておいてほしい。

事務局：議会からも、中心市街地の活性化に結び付けられるのではないかと意見も出ている。

委員：それは基本構想の中で入れていくべき。どうやって市民の理解を得ていくか。防災の一点突破で進めるのか。

委員：複合的なものでは。市民サービス、災害時の拠点、分散庁舎、町の活性化や景観的資源、市民のステータスとして誇りに思う空間、公共建築の果たす役割など。また、商店街の活性化や駅の問題などもうまく連携させられれば。庁舎単体ではなかなか進まない。

委員：市民に理解してもらうためには、繰り返し繰り返しシンプルに伝えていく必要がある。委員の中では必要性を理解できていると思う。市民に理解してもらうためにどうすればよいかをテーマに話しても良いのではないかなと思う。街の活性化に繋がるという視点と市民の意見を聞く姿勢を示したアンケートにすべきだ。

委員長：委員会として庁舎整備の必要性があるということで良いか。

委員：(反対意見なし)

事務局：アンケートについては、修正させていただく。

委員：意見をメールで集約し委員長に一任でよいのでは。

委員長：これに意見は

委員：(とくに意見なし)

事務局：14日までには調整を終えたい。できれば10日までが良い。

委員長：調整を進めるが、その際には対案を出してもらいたい。

委員：アンケート修正について、方向性の確認をしたほうがよいのでは。

委員：質問2が一番利用している庁舎をわかるように変更すること。また、質問4は焦点をしばって濃淡のつく回答を設定する。または、数を絞ってもよい。市で検討してもよい。

委員：一番利用するところを、次を、次をにしては。

委員長：質問5についてはどうか。

委員：複数回答では答えにくいと思う。

委員：コスト面が気になるのではないかな。コストパフォーマンスが優れている方が良い。コスト面についての項目を入れては。

委員：防災がしっかりしていること、というような聞き方もした方が良いのでは。

委員：詳細については基本計画くらいで触れたら良いのではないかな。

委員：もっとざっくり聞いて、次の段階につなげた方がよいということか。

委員：根本的な項目に絞って、上位3つくらいまでを選んでもらうやり方がよいのでは。

委員：似通っている項目もある。

委員：一般市民から見ると全部丸としたくなる。まずはアンケートを取ってみて結果をみてはいいのではないか。それから次につなげれば良い。

委員：時間があればそれで良いが、このスケジュールではそんな余裕はないので、戦略性があるのでは。お金のかかることなので優先順位をつけておく必要がある。

事務局：課題を絞って答えやすく、また分析しやすくするということが。

委員：市で検討して委員長に一任でよいのでは。

事務局：素案を作って再度諮らさせていただきたい。質問2は場所と頻度をリンクさせるようにすること。利用目的も上位いくつまでと絞るようにする。質問3についても同様に上位いくつまでという形にする。質問4についてはある程度絞る。また防災機能、コスト面、サービス面などを段階で回答できるようにする。で良いか。

委員：上位いくつまで、という形に変更するだけで濃淡はつく。そのくらいのほうが回答もしやすいのではないかと思う。

事務局：案にはコスト面について触れていなかったなので、入れていく。

委員：町の活性化に繋がるようなことについても触れたほうがよいのでは。憩いの場とか。

委員：直接的に中心市街地の活性化に寄与するでよいのでは。

委員長：色んな意見があるので、結局数はこのくらいで良いということか。コストパフォーマンス、町の活性化につながるは触れるとする。上位いくつの中で順位がわかるようにする方法もある。質問4と5は5つまで回答するということが良いか。

委員：似通ったものは、まとめないと回答がばらけてしまう。

委員：できるだけわかりやすい言葉がよい。

委員：市広報で説明もすることであるし、最後の問いで市庁舎の建設についてどのように思っているか聞いてみては。

委員長：あり方について聞くので、そういった回答も含まれるので良いのでは。

委員：甲府市のアンケート結果では、ネガティブな意見が多かったように思う。そうなった場合にまとめることができるのか不安に思う。

事務局：今は整備が必要だとお話している。建て替えかリニューアルかははっきりいえないし、コストについても今の段階では比較できない。そのあたりをお示しして初めて、どちらかということになる。

委員長：ほかに意見は。

委員：建設についてはどのような条件が満たされると決定されるのか。パブリックコメントか。

事務局：パブリックコメントは基本構想の内容について問うのであって、賛否を問うわけではない。

委員：建設するにあたって賛否は問わないのか。

事務局：住民投票を行う予定は無い。段階に応じて予算が伴うので議決をえていくことになる。市民の皆さんの理解を得るためにも出前トーク等で出向いて行って説明をする。

委員：市民の理解をえることが大事。だからこそこのアンケートの最後でどのように問うのか。市庁舎を整備することについて意見を聞けばよいのでは。

事務局：今の状況をきちんと伝えていくことが大切と考えている。

- 委員：情報が無い段階で、意見を聞くのはよくないかもしれないのでは。
- 委員：この委員会では詳細について情報をもらっているので、整備の必要性は認識している。関心がないかもしれない市民に対してどのように伝達していけばいいのか。
- 委員：出前トークで市側から赴くことはないのか。
- 事務局：7月下旬に東部の老人大学校の集会に出ささせていただいて、基本の方針について説明した。
- 委員：頼まないと出前トークも機能しないのであれば、情報発信として不十分ではないか。
- 委員：駅の市民交流広場で月に一回は公開するから誰でも来ても良い形で情報発信してはどうか。目につくところに検討していることを出していくことができる。
- 委員長：市民も毎回市広報を見ているわけではないかもしれないので、繰り返し情報を提供しておく必要がある。
- 委員：アンケートを実施する際にも、市広報の紙面を取って情報提供をするのか。
- 事務局：アンケートの際は折り込みのみで、情報提供の予定はない。
- 委員長：アンケートの目的は説明できるのか。
- 事務局：アンケートの紙面を使って説明をする予定である。
- 委員：実際にはどのくらいの回答があるものなのか。
- 事務局：およそ1割の回答があると考えている。
- 委員：FAXやメールでの回答は認めるか。
- 委員長：メールでの回答希望は多いのではないか。
- 委員：紙を使用することで、なりすましを防げるのではないか。
- 委員長：いろんな回答方法を検討してもらいたい。
- 委員：納税者という観点からみると、周南市には大企業があるのでアンケート回答の協力を依頼してはどうか。
- 事務局：納税者という視点だと市広報が一番だと考えている。
- 委員：市広報を見て若い世代が回答するとは思えない。他に良い方法があるのではないか。
- 委員：商工会議所のように一か所で頼めるところがあればそれも良いのではないか。
- 委員：世帯という捉え方は、結果的に公平になるのではないか。回答を若い人がする可能性もある。パブリックコメントで若い世代に聞く方法もある。
- 委員長：質問6については。
- 委員：ここはこれくらいで良いのではないか。
- 委員長：では、この方向で進めるということで。今日のご意見は、全体として市民の合意を経て進めていこうということを確認した。

3 その他

- 委員：周辺施設に関するマスタープランはないのか。
- 事務局：庁内で市民館や勤労福祉センター等についての検討を進めている。市民館は平成22年度の事業仕分けで代替機能があれば廃止を検討するという方向で決定している。現在は会議室の利用が多いが、新庁舎の会議室は、昼間は庁舎として使用し、夜の利用に限定して貸すことはできる。それ以外については廃止の予定である。

委員：廃止となった場合の跡地利用は、同じものができては意味がない。全体計画が必要だと思う。是非、示していただきたい。

事務局：庁舎建設等調整会議で検討していくことになる。勤労福祉センターは、学び交流プラザに合わせて廃止となる。

委員：岩国市が庁舎を建設しているので、指導を受けたりしてはどうか。

委員長：岩国市以上のものを目指していきたい。

事務局：時期が来れば視察も考えている。

4 決定事項

(1) 現状と課題及び庁舎整備の必要性

本庁機能を有する部門が配備されている庁舎の現状及びそれぞれの庁舎が抱えている課題があることを確認し、庁舎整備の必要性があることを決定した。

5 次回委員会日程

委員会の次回開催は、10月1日(月)18時からとする。